

感謝の4年間

生涯教育専攻4回生 高田珠美

2月も終わりに迫ってきた頃、石飛先生より『生涯教育研究』に載せる原稿のお願いという連絡をいただき大変驚きました。文章を書くことが本当に苦手な私は何を書いたらいいのか分からず、書けることがないので初めはすぐにお断りしようかと悩んだけれど、せっかくだいたい機会をありがたくお受けしたいと思い、下手な文章ですが私がこの天理大学での4年間で経験したことについて振り返って書いてみたいと思います。

私が生涯教育専攻を選んだのは、特に何かがしたかったから、何か目的を持っていたからという理由があったわけではなく、大学には行きたいけれど何を勉強したいかが分からなかった時に、当時天大に通っていた姉の友だちが生涯教育専攻だったので話を聞き、面白そうだなあ、と生涯教育という言葉に興味を持ったことがきっかけでした。大学生活は初めての姉との二人暮らしということもあっていろいろな期待もありました。しかし、高校までは仲のいい友だちとずっと一緒に授業を受け一緒に行動することが当たり前だったので、大学で一人一人が自分で授業を選択し、常に一緒にいれる高校までのような友人関係を作ることができずに初めはとても不安でした。さらに親元を離れての生活に夜遅くまでのアルバイトに何もかもが初めてのことばかりで入学した頃は不安と寂しさでいっぱい毎日でした。

そんな大学生活にも慣れ、毎日友だちや仲間と楽しく過ごしていた頃だったのに、私は人間関係でとても悩んでしまい本当に学校を辞めたいと思ってしまった時がありました。今まで経験したことのないほど人との関係が悪くなり、人間関係でこんなに悩んだことがなかったのでその時はどうすればいいのか全く分からず、他の友だちにも相談できず人間関係での悩みを初めて母に相談しました。母は悩んでいることに対して優しく、そして私の弱さに対して厳しくこたえてくれました。人と接するのが怖くなりかけていたほどの私のどん底の心を救ってもらい、私はその時本当に親のありがたさを感じました。そして私の周りにはたくさんの友だち、仲間がいて、みんなに支えられて私がここにいるんだということを実感しました。

振り返ってみると毎日毎日必死で辛かったあの頃も今は全ていい思い出だなあと思えるくらい、私は天大で今までの人生で経験したことのないたくさんのことを経験しました。

その中でもとても大切な経験はボランティアサークル「マンモス」と出会いボランティアができたことです。マンモスには1回生の時からずっと興味があったものの、きっかけがなく自分から行く勇気がなかなか出ず、行きたいと思いながらもずっと行けずじまいでした。2回生になり、既にマンモスに入っていた友だちに連れて行ってほしいやっとの思い

でマンモスの会議に行くことができました。しかし、その頃、学科会「三矢会」の行事によく参加していた私は、マンモスには入ったものの行事に1, 2回参加したきりなかなか普段の活動に行くことができませんでした。本格的にボランティアに行けるようになったのは3回生になってからでした。入学してきた1回生ととても仲良くなり今までよりもマンモスにも行きやすくなりました。行き出すと毎回のボランティアはとても楽しく、今となっては何でもっと早くから行かなかったんだらうかと悔やむほどです。私の関わったボランティア活動は主に知的障がいを持った子どもと接することが多く、子どもの気持ちかわからず、自分がボランティアとして本当に役にたっているのか日々悩むことばかりでした。でも、マンモスの先輩や同級生、後輩、子どものお母さんたち、みんなと一緒にあって悩み考え、そして子ども達と接している時は一緒になって楽しみ、毎回毎回が私自身勉強になることばかりで、子どもと一緒に自分自身も成長させてもらえる場所でした。今でもボランティアとしての自信があるとは言えませんが、日々勉強し成長できるように、マンモスで出会ったボランティア活動はこれからもずっと続けていくつもりです。

もう一つ、私にとってとてもいい経験となったことは、学科会活動に参加できたことでした。先輩方に良くしてもらい私は1回生の時から三矢会に参加して楽しい日々を送っていました。しかし、2回生の終わりには先輩方が引退され、自分たちが3回生となり三矢会での最後の1年をまとめていく立場となった時、私はその頃の学科会のテンションや雰囲気になかなか好きになることができずにいました。そんな時、三矢会の会長となった万年くんから総務という部署の長をして欲しいと言われ、学科会自体行きたくなく辞めようとしていた時だったけれど、私を三矢会に必要としてくれて引き止めてくれている気がして、嬉しくて声をかけてくれたことに感謝して総務の長をすることにしました。また、一緒にやろうと誘ってみた柴山さんが三矢会に参加してくれることとなりとても嬉しかったです。

学祭の時期になり、1回生の頃から灯籠づくりに参加していた私は、せっかくやるならずっと憧れていた先輩のようにになりたい!と思い、灯籠の長・棟梁をさせてもらうことになりました。人前で話したり、まとめたりなど、とにかく人前に立つことが苦手な頼りない私だったけれど、みんなで協力してやれば大丈夫と快く棟梁にさせてくれました。実際にはみんなに頼りっぱなしで憧れていた先輩のようには全くなれませんでした。準備期間を含めての学祭の1ヶ月間を私なりに必死で頑張り、三矢会で一番上に立つというとてもいい経験をさせてもらいました。

天大は上下の繋がり、横の繋がり、人と人の繋がり、絆がとてもある学校だと思います。私は4年間で失敗もよい経験もたくさんでき、多くの人との出会い、そして別れもありましたがその全てが自分にプラスになることばかりでした。この4年間で私はいろいろな人から、友だち多いなぁと言われるようになりました。今までそんなことを言われたことがなかったし、自分から人と関わるのが本当に苦手だったので、自分自身でもこんなに

たくさんの人と出会えて、いろいろな人とうまく関わっていけるなんて思ってもいなかったのでも驚いています。大好きだった先輩方が卒業した時は寂しくて悲しくて仕方なかったけれど、また新たな後輩とのいい出会いがあり、いつでもそばに仲間がいてくれて、いつもどんな時でも隣で誰かが支えてくれていました。本当に人に恵まれた4年間を過ごせ、出会えたすべての人たちに感謝しています。言い方が大げさかもしれませんが、これから一生関わっていきたい、私の人生を変えてもらえたくらいとても大切な人とも出会えました。それもこの天理大学に来られたからこそだと思います。

生涯教育専攻は、人生、一生涯における楽しみ、生き甲斐を見つけ出せる多くのことを学べる所でした。また、少人数だからこそ、先生、先輩、後輩たちともたくさん関わりあって、そんな機会が持てる生涯教育専攻の行事が私は大好きで、ソフトボール大会や生涯合宿には4年間全て参加できました。目標や目的もなく生涯教育専攻に来てしまったけれど、私はそこでたくさんの人と出会い、たくさんのことを学び、たくさんのことを経験して、たくさんの思い出を作ることができました。そしてなにより、一緒に入学して一緒に授業を受けてきたかけがえのない2人の仲間と出会うことができました。みんなでフレ

バナ会と名づけて遊び、連絡ノートを1ヶ月で終わらすほど書いていた頃が懐かしく思います。研究室には、お昼には毎日イスが足りなくなるくらいみんなが集まり、いつも笑いが絶えず、そこに行けば先生や友だち、誰かと会える場所でした。そんな素敵な生涯教育専攻と出会えて私は幸せでした。大学生活はやりたいことがあるなら何にでも挑戦して、どんなことでも勇気を出してやるべき場所だと思います。たくさんのことを大学デビューしていっぱい経験できて、私は、天理大学と生涯教育専攻に出会えて本当によかったと思います。

大きな期待と少しの不安でドキドキしていた入学式のことをこないだのようにまだ鮮明に思い出せるくらいあっという間の4年間でした。

4年間、いつもどんな時でも暖かく見守って応援してくれていた両親、家族に感謝しています。そして、今まで本当にお世話になった生涯教育専攻の先生方には感謝してもしきれないくらい、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に本当にありがとうございました。